

從日本電影之中譯字幕探討跨文化要素之翻譯策略 -以「送行者-禮儀師的樂章」為例

鄭加禎

世新大學日本語文學系副教授

摘要

國際化及媒體發展的浪潮下，影視翻譯之需求日益增加。但影視翻譯之相關研究相對於一般文藝翻譯研究可說為數不多；其中日本電影之中譯字幕研究更是少之又少。翻譯最大的難點莫過於跨文化要素的轉換；而影視字幕最大的特點在其呈現方式受限於螢幕空間及對白時間。在文化要素、時空制約等條件下，翻譯策略有別於一般文本。

本研究以 2009 年獲得奧斯卡最佳外語片之日本電影「送行者-禮儀師的樂章(日文:おくりびと)」之中譯字幕為研究對象，分析片中跨文化要素之翻譯方式及翻譯效果。本研究首先以 Pedersen(2011)之跨文化要素 12 分類為準則篩選出文化語辭，再以鄭(2017)之翻譯策略為框架，考察日譯中電影之文化語詞的翻譯策略。

關鍵詞：字幕翻譯，日譯中，翻譯策略，跨文化要素

受理日期：2021 年 03 月 10 日

通過日期：2021 年 05 月 14 日

A Discussion of Cross-Culture Elements in Translation Strategy for Chinese Subtitle Translation of Japanese Films: A Case of the Movie “Departures”

Cheng, Chia-Chen

Associate Professor, Department of Japanese, Shih Hsin University

Abstract

Under the trend of internationalization and media development, the demand for audiovisual translation has been increasing. However, the research of audiovisual translation is relatively little compared to that of general literary translation. Among them, there are even few studies on the Chinese subtitle translation of Japanese movies. The greatest difficulty in translation is the translation of cross-cultural elements; and the most important feature of video subtitles is that their presentation is limited by screen space and dialogue time. Under the constraints of cultural elements and time and space, the translation strategy of film and television subtitles is different from ordinary texts.

The research object is the Chinese subtitles of the Japanese film, “Departures” (Japanese: おくりびと), which won the Best Foreign Language Film of Oscar Awards in 2009. The study aims to analyze the translation methods and translation effects of the cross-cultural elements in the film. This research first adopts Pedersen’s (2011) 12 classifications of cross-cultural elements as criteria to select cultural vocabularies, and then uses Cheng’s (2017) translation strategy as a framework to examine the translation strategies of cultural vocabularies in Japanese-Chinese translation films.

Keywords: Subtitle translation, Japanese-Chinese translation, Translation strategy, Cross-cultural elements

日本映画の中国語字幕に見る異文化要素の 翻訳ストラテジー—「おくりびと」を中心に

鄭加禎

世新大学日本語文学科准教授

要旨

インターネットおよびマスメディアの発展とともに、画像が情報や文化伝達に大きな役割を果たすようになって、字幕翻訳のニーズも高まっている。にもかかわらず、文芸翻訳の研究に比べて字幕翻訳研究はまだ多くない。そのうち、日本語画像の中国語字幕に関する研究は極めて少ないといえる。

翻訳に当たって異文化の転換は一つの障壁と考えられている。字幕翻訳は限られた空間、時間および画面の補助の下で起点社会の音声を目標社会の文字にする越境作業である。種々の制限のもとで文化を越境させるのが困難な作業であり、翻訳ストラテジーにさまざまな工夫を加えなければならないと考えられる。

本研究は 2009 年にアカデミー賞を受賞した日本映画「おくりびと」を研究対象とし、映画に出現した文化要素の翻訳方法およびその効果を分析する。研究方法としてはまず Pedersen(2011)の提出した異文化の 12 要素を基にして、文化要素のある表現を選出する。次に鄭(2017)を枠組みとしてそれらの表現の翻訳ストラテジーを考察する。

キーワード：字幕翻訳、日本語訳、翻訳策略、異文化要素

日本映画の中国語字幕に見る異文化要素の 翻訳ストラテジー—「おくりびと」を中心に

鄭加禎

世新大学日本語文学科准教授

1.はじめに

インターネットおよびマスメディアの発展とともに、画像が情報や文化伝達に大きな役割を果たすようになって、字幕翻訳のニーズも高まっている。にもかかわらず、文芸翻訳研究に比べて字幕翻訳研究は学問として携わっているものはまだ多くない。そのうち、日本語画像の中国語字幕に関する研究は極めて少ないといえる。

近年、翻訳とは両言語の転換だけではなく、文化の越境と捕らえられるようになってきた(保坂2016)。¹そして、翻訳の内容は文学作品、実用書、映像作品など広い範囲にわたって翻訳の目的も多様化が進んでいる。このような背景のもとで、翻訳研究の焦点は訳文と原文の意味が一致しているかという「原文志向」から、訳語が翻訳の目的に達したかという「機能志向」へと移っている傾向が見られた(藤濤2007)。²これに関して起点言語(原文)にある異文化要素がどのように翻訳目的をもとにして目標言語(訳文)で表現されるかについても関心を集めた。

本稿は2009年アカデミー賞外国語映画賞を受賞した日本映画「おくりびと」を対象とし、異文化要素の翻訳に焦点を置き、中国語字幕の翻訳ストラテジーとその効果について考察を行う。

2.先行研究

¹ 保坂敏子(2016)「字幕翻訳で失われる要素：言語教育との関わりを考える」『日本語と日本語教育』44，慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター，pp.41- 57

² 藤濤文子(2007)「翻訳行為と異文化間コミュニケーション—機能主義的翻訳理論の諸相」松籟社 参照

2.1 字幕翻訳に関する研究

本稿と同じく映画「おくりびと」を対象に字幕翻訳調査を行った研究は篠原(2013)と矢田(2014b)がある。篠原(2013)は Pedersen(2011)の提出した異文化要素の12領域を基準に英訳字幕から30例を抽出し、読者をオリジナルに近づけさせる起点志向方略と、異質を低減させる目標志向方略との使用回数について調査を行った。篠原の分析結果では、起点志向方略の採用回数は16か所であり、目標志向方略の採用回数は14か所であった。回数の差は顕著ではなかったから、異文化要素の翻訳方略は常に異質を保留しているわけでもなく、常に訳語社会に馴染みやすい表現に置き換えているわけでもないという結論が出された。³

一方、矢田(2014b)は「おくりびと」の英語字幕およびスペイン語字幕から「ルーズソックス」、「母を看取ってあげられなかった」、「山形の田舎」という3つのセリフを抽出し、記号学の視点から訳語を分析した。矢田によると、翻訳にあたって言葉の意味が同じでも同じ感覚、イメージを思い浮かべられなければ訳語として機能しない。したがって訳者が視聴者に即時に理解してもらうために翻訳ストラテジーで訳語を操作し文化差異を埋めなければならないという。例えば「ルーズソックス」を直訳して“Loose socks”にしても、英語圏の視聴者はそれは女子高生が流行として履いていたソックスのことだという理解に至らない。したがって訳者が実際に映像に出た女子高生を活かし“socks like us”に訳した。また、「山形の田舎」における「山形」は日本東北の地名として認識できないという理由で英訳でもスペイン語訳でも削除された。一方、訳語操作によって重要な要素が削られた危険性もあると述べられた。矢田によると「母を看取ってあげられなかった」は“not looking after my mother when she was alive”にされ、つまり起点言語における「死に際を見送る」とい

³ 篠原有子(2013)「映画『おくりびと』の英語字幕における異文化要素(日本的有標性)の翻訳方略に関する考察」『翻訳への招待』9, 日本通訳翻訳学会, pp.81-97

うニュアンスが「看病する」という意味になって、映画の主題と深く直結する語感が落とされたという。⁴

篠原(2013)と矢田(2014b)は分析の視点が異なるが、いずれも訳者の役割を検証し、新しい文化コードを再構築するにあたって、文化認識力の重要性に言及した。

また、鄭(2009)はサスペンス洋画の中国語字幕を分析し、翻訳と推論との関係を論じた。鄭によると訳者が起点言語の代わりに推論で内容を理解している場合がたくさんある。したがって、字幕の作成はストーリーの背景や会話の文脈、登場人物の表情、動きなど非言語的な要素からメッセージの意味を判断しなくてはならないという。⁵

2.2 異文化要素に関する研究

コミュニケーションの専門家 Pedersen(2011)はスカンジナビア語の字幕コーパスから言語学分野以外の異文化要素を次の 12 領域に分類した。⁶

- (1) 度量衡(Weights and measures):100 ヤードなど
- (2) 固有名詞(Proper names) : 人名、地名、制度上の名称、商標など
- (3) 職業上の役職名(Professional titles) : Detective Sergeant など
- (4) 料理および酒類 (Food and beverages)
- (5) 文学作品(Literature)
- (6) 政府機関(Governamet) : the Foreign Office など
- (7) 娯楽(Entertainment) : Coney Island など
- (8) 教育制度(Education) : college degrees など
- (9) スポーツ(Sport) : the pitcher mound など
- (10) 通貨 (Currency)

⁴ 矢田陽子(2014b) 「異文化研究としての翻訳学と記号学 -映画『おくりびと』の英語・スペイン語字幕 にみる言語文化-」『尚美学園大学総合政策論集』18, 尚美学園大学総合政策学部総合政策学会 pp.65-79

⁵ 鄭寶璇(2009) 「從關聯性理論探析科幻電影的字幕翻譯」『Journal of Translation Studies 』12 (1&2)香港中文大學,pp.97-122

⁶ Pedersen,J.(2011)Sbutitling norms for television. Amsterdam & Philadephia: John Benjamins.参照

- (11) 技術材料(Technical material) : double Alberti feedback loop など
- (12) その他

Pedersen の提出した 12 領域は異文化要素が見られやすい部分であるが、この 12 領域に属する語彙はすべて文化要素があるものという意味ではない。それにも関わらずこの 12 領域は翻訳研究の方向性を示した。

また、中川(2017)は言語学の視点から文化語彙について言及した。中川によれば文化語彙とは言語ごとに存在が異なりやすい意味項目に該当する単語群で、いわばその単語群の存在を条件づけているのがその言語社会の文化であると述べている。⁷

このように Pedersen は具体的に文化要素の現れやすい側面を取り上げて、中川は文化語彙の射程を定義した。Pedersen の分類は映画の画面や人物のセリフから特定できるものなので、翻訳のストラテジーの枠組みとして応用されている(篠原 2013、2014)。⁸本研究は Pedersen の分類を基準にしながら中川の定義も参考し、文化要素のある表現を選出することにする。

2.3 翻訳のストラテジーに関する研究

各国の翻訳研究者は異なるテキストを分析してさまざまな翻訳ストラテジーを提出した。例えば、藤濤(2002)はドイツ語童話の日本語訳を対象にストラテジーの 9 分類を提出した。⁹また、矢田(2014a)はイギリス映画の日本語字幕翻訳から 10 分類抽出し、鄭(2017)は日本映画タイトルの中国語訳から翻訳の 8 分類を定義した。以下は本研究と直接関連している矢田(2014 a)の字幕翻訳ストラテジーおよび鄭(2017)の中国語翻訳ストラテジーを紹介する。

矢田(2014a)の10分類¹⁰

⁷ 中川裕 (2017)「カラハリ狩猟採集民の語彙研究から言語の普遍性と多様性の理解へ」『FIELDPLUS』18,東京外国語大学 pp.4-5

⁸ 篠原(2013)同注 3。篠原有子(2014)「日本映画の英語字幕における訳出要因について—制作プロセスと視聴者に着目して」『翻訳通訳研究』14, 日本通訳翻訳学会 pp.97-104

⁹ 藤濤文子 (2002)「固有名詞の翻訳方法について--グリム童話の場合」『ドイツ文学論集』31,神戸大学,pp. 19-32

¹⁰ 矢田陽子(2014a)「BBC『Pride and Prejudice, 高慢と偏見』字幕分析 言語文化

- (1) 言語的拡張：本来は存在しない意味の語を加えて意味の幅を広げる。
- (2) 言語的圧縮：言語的に意味を圧縮し、より簡潔な表現にする。
- (3) 省略：訳す必要がない、又は訳しても認識されるのには困難が生じると判断された場合、もしくは限られた字幕枠にはまらない場合に訳す必要性の有無を精査し消去する。
- (4) 置換：文化的に特有な名詞や固有名詞をより認知されやすい名詞で置き換える。
- (5) 一般化：言語文化特有の表現や言い回しをより一般的な表現にする。
- (6) 調整：起点言語の意味を視点を変えた表現で表す。
- (7) 特化：起点言語の文化特有の表現や暗喩を敢えて誇張するか、その特徴を活かして目標言語ではっきりとわかりやすく表す。
- (8) 説明型：文化的要素を強く含む名詞を説明する形をとる。
- (9) 俗語緩和：俗語、卑語、差別用語などをより緩和した表現にする。
- (10) 創作：あくまでも本来の意味に極力沿うように表現を全体的に創作しなおす。

鄭(2017)の8分類¹¹

- (1) 移植法：原文にある表記をそのまま使用する。
 - (1-1) 漢字移植法:中国語の使用慣習とは異なる漢字語彙を使用する。
例：「元宵道中」 → 『元宵道中』
 - (1-2) ローマ字移植法:原文における英文字を使用。
例：「S-最後の警官」 → 『S-終極警官』
- (2) 音訳法：原文の音を再現する。
 - (2-1) 漢字音訳法:漢字で日本語の音節を綴る。
例：「思い出のマーニー」 → 『回憶中的瑪尼』

差異と翻訳との関係」『尚美学園大学総合政策研究紀要』25,尚美学園大学総合政策学部,pp.47-64

¹¹ 鄭加禎 (2017) 「日本映画タイトルの訳名研究－台湾と中国の異同をめぐって」『台湾應用日語研究』21 台湾応用日本語学会, pp.93-117

(2-2)ローマ字音訳法:ローマ字で日本語の音節を綴る。

例:「ハマトラ」→『HAMATORA-超能偵探社』

(3)意識法:同じ概念を表す語彙で表現する。

例:「妖怪ウォッチ」→『妖怪手錶』

(4)改訳法:視点を転換したり、または関係のある概念で呈示する。

例:「るろうに剣心」→『神劍闖江湖』

(5)加訳法:原文にない要素を入れる。

例:「ハイキュー！！」→『排球少年』

(6)減訳法:省略する。

例:「進撃の巨人 ATTACK ON TITAN」→『進撃的巨人』

(7)英訳法:原文における日本語(外来語を含む)を英語で呈示する。

例:「仮面ライダー ドライブ サプライズ・フューチャー」

→『假面騎士 Drive Surprise Future』

(8)命名法:新たな名前を付ける。

例:「トワイライト ささらさや」→『再説一次愛你』

表 1 矢田(2014a)と鄭(2017)の翻訳ストラテジー

矢田(2014a)	鄭(2017)
	(1)移植(漢字、ローマ字)
	(2)音訳
	(3)意識
(1)言語的拡張	(5)加訳
(2)言語的圧縮	(6)減訳
(3)省略	
(4)置換	(4)改訳
(5)一般化	
(6)調整	
(7)特化	
(9)俗語緩和:	

	(7)英訳
(8)説明型	
(10)創作	(8)命名

表1の通りに矢田(2014a)および鄭(2017)のストラテジーには異同があるが、それは分析材料および転換する2言語の語種が翻訳ストラテジーに大きく影響するからである。矢田(2014a)は起点言語と目標言語が指示するものにずれがある場合を2者の意味包含関係によって「置換」、「一般化」、「特化」、「調整」、「俗語緩和」に細分化したが、鄭(2017)は「改訳法」で一括した。そして鄭は訳語の表記に注目して「漢字・ローマ字移植法」、「音訳法」、「英訳法」のストラテジーを抽出したが、矢田(2014a)は表記の問題は取り上げなかった。そのほか、矢田の研究には起点言語と同じ概念で表現するストラテジー「意識法」も取り入れなかった。¹²

上述のように納棺の話をも題材とした「おくりびと」は日本語とラテン語系における異文化問題を研究する対象として有効である。そして起点言語と目標言語の語種が異なれば使用する翻訳ストラテジーも異なるので、「おくりびと」に存在する異文化要素がどのように中国語で表現されるかを考察することによって、日中両国語における越境のルートを明らかにすることができると思われる。

3. 研究対象と研究方法

映画「おくりびと」は2009年台湾で上演され、大きな反響を呼んだだけでなく、葬祭業者の自分に対する位置づけ、人々が持つ葬祭業者へのイメージにまで影響を与えて、生命教育の教材になっている(林 2016)。¹³ストーリーには忌みとして避けられている日本式の遺体の扱い方や葬式儀礼など、外国人にとっては生活経験から離れ

¹² 本稿の述べた「意識法」は矢田(2014a)においては「直訳」と名付けたが、日本語と欧州言語間での翻訳では「直訳」が不可能となるという理由でストラテジーとして設定しなかった。矢田(2014a)は注10参照。

¹³ 林素英(2016)『送行者-禮儀師的樂章』的儒學義理詮釋-愛你一生一世的實踐範例』『生命教育研究』8(1), 高等教育出版社 pp.51-71

た語彙が存在しているが、画面と字幕を通して多くの人々を感動させた。

本研究において、日本語のセリフは日本で販売されたDVDから採録したもので、中国語の字幕は台湾で販売された同一作品の中国語版DVDから抽出したものである。字幕のデータは分析に当たってはまず、Pedersen(2011)の提出した異文化の12要素を基にして、「おくりびと」に出現した文化要素のある表現を選出する。次にそれらの表現の翻訳ストラテジーおよび訳語の効果を考察する。本稿の取り扱う目的言語は中国語であるため、ストラテジーの分類および命名は基本的には鄭(2017)を基準にする。実際の字幕翻訳例に合わせて検証し、鄭(2017)で説明できないものがあれば、矢田(2014a)を参考して分類する。

本稿において日本語の漢字と中国語を区別するために前者を「」で、後者を『』で表記する。

4. 研究結果

Pedersen(2011)の提出した異文化要素の12領域を基にして「固有名詞」、「役職名」、「料理」、「娯楽」、「通貨」、「その他」の6領域に渡る表現を36例集めた。ここでは鄭(2017)と矢田(2014a)の翻訳ストラテジーを参考し、上記の6領域に沿って使用された翻訳ストラテジーおよび訳語の効果を論じる。

4.1 固有名詞

表2からわかるように、漢字またはローマ字で表記された固有名詞は地名、人名を問わず、「移植法」で訳されている。一方、「ツヤ子」、「ミュキ」、「スターホテル」、「ルーズソックス」のような仮名で表示された固有名詞には翻訳ストラテジーのバラエティーが見られた。「ツヤ子」、「ミュキ」のような人名は訳者が自分の判断で漢字を選択して『豔子』と『美雪』で表示され、「スターホテル」は意識で『明星旅館』にされた。

全体からいうと、固有名詞の翻訳は「漢字移植法」がよく使用さ

れているストラテジーであることが判明した。日本語の英訳では認識されやすい固有名詞がよく音訳にされ、認識しにくいものが削除される(矢田 2014b)のに対して、「漢字移植法」の多用は中国語訳の特徴といえよう。これは当たり前のように考えられるが、両言語における文化的距離が翻訳ストラテジーに大きい影響を与えることを意味する。ヨーロッパに比べて、台湾は日本との文化的距離が近いため、翻訳の際に日本要素が多く保留されたと考えられる。

表 2 固有名詞の翻訳ストラテジー

日本語のセリフ	中国語字幕	翻訳ストラテジー
留男	留男	漢字移植
曾根崎さん	曾根崎先生	漢字移植
美香	美香	漢字移植
直美	直美	漢字移植
ツヤ子	豔子	当て字 ¹⁴ 漢字移植
ミユキ	美雪	当て字
詩織	詩織	漢字移植
小林大悟	小林大悟	漢字移植
<u>NK</u> エージェント	<u>NK</u> 代辦處	ローマ字移植
山形	山形	漢字移植
帯広	帶廣	漢字移植
米沢牛	米澤牛	漢字移植
由良濱漁協	由良濱魚會	漢字移植
スターホテル	明星旅館	意訳

4.2 役職名

¹⁴ 「当て字」は鄭（2017）と矢田(2014a)には設定していない翻訳方法。

役職名に関する文化要素のある語彙は「納棺師」と「社長」の2語を取り上げる。この2語はともに「漢字移植法」で翻訳され、『納棺師』と『社長』と表示された(表3)。

表3 役職名の翻訳ストラテジー

日本語のセリフ	中国語字幕	翻訳ストラテジー
納棺師	納棺師	漢字移植
社長	社長	漢字移植

「納棺師」は台湾では『入殮師』と呼ばれて、「意識法」で表せる語彙である。『入殮師』を使わずに日本語の語彙「納棺師」がそのまま使われたのは、おそらくストーリーの文脈への考慮であろう。納“NOU”棺“KAN”の頭文字が“NK”であり、主人公の勤め先「NK エージェント」と関連がつけられている。そして「納棺師」の訳語はそのまま『納棺師』にすると、「NK エージェント」の訳語『NK 代辦處(表2)』ともつながりが成り立つのである。言い換えると、『入殮師』の代わりに『納棺師』にすれば、目標言語も起点言語のように主人公の職称と会社名との関連が付けられる。実は中国語では『納“NA”棺“GUAN”』の頭文字は“NK”ではなく“NG”である。ローマ字の“K”と“G”には無声音と有声音の違いがあるが、発音方法が同じであるので『入殮』に比べて『納棺』の方が後に出てくる『NK 代辦處』との関連性が高い。

この例は翻訳の際に起点言語と相応する語彙が存在しても、ストーリーの流れや関連性のある物事の発音などを考慮して訳語社会で馴染みのある語彙を使わずに、起点言語の異質性を保留する場合があることを示唆した。

一方、『社長』は中国語では学校のサークルの部長のことであり、会社の経営者を意味する「社長」は中国語で『老闆』、『經理』に相当する。つまり、『社長』と「社長」は同型異義語である。にもかかわらず、「社長」はドラマや漫画でよく目にする日本語なので、意味が文脈から理解できる身近な文化語彙といえよう。このような異質性が薄い文化語彙は中華系の視聴者が労力を掛けずに受容できて、

同型異義語であっても誤解することはないと考えられる。

4.3 料理名

料理に関する語彙は「すき焼き」、「サーロイン」、「シラタキ」、「河豚の白子」の4語を取り上げる(表4)。「すき焼き」という命名は調理法と関わっていて、「サーロイン」は外来語であり、「河豚の白子」は食材から、「シラタキ」は外形から名づけられたと考えられる。これらの料理名の訳語はさまざまなストラテジーを活かして作られたが、『壽喜焼』を除き『牛五花』、『蒟蒻麵』、『河豚的魚白』はいずれも食材を料理名にしたものである。

異国料理名の翻訳は材料の一部分を名前にするのが一番理解されやすい方法であるが、「白子」のような台湾ではあまり見られない食材だと、『魚白』という相応の言葉が存在してもどのようなものなのか見当が付かない可能性がある。¹⁵

表4 料理名の翻訳ストラテジー

日本語のセリフ	中国語字幕	翻訳ストラテジー
すき焼き	壽喜燒	音訳＋漢字移植
サーロイン	牛五花	意訳
シラタキ	蒟蒻麵	改訳＋加訳
河豚の白子	河豚的魚白	意訳

4.4 娯楽

娯楽に関する表現は「演歌」と「スナック」の2語を取り上げる。前者は「漢字移植法」で、後者は「改訳法」で目標言語にされた(表5)。

「演歌」にはっきりした定義はないが、現代日本音楽のジャンルの一種と考えられ、中には心を豊かにする素朴で純粋な風光明媚な日本の自然、それと一体化した生活空間、風土、情景が歌詞で表現されているものもある。演歌には悠久の歴史が育んできた原始的郷

¹⁵ 『魚白』は『萌典』に収録されている語彙。
<https://www.moedict.tw/~%E9%AD%9A%E7%99%BD> 参照。

愁や抒情を感じさせる日本という風景があるのだと紹介されている(菊池 2016)。¹⁶篠原(2013)の字幕研究では「演歌」は”an old song“と英訳されて、日本要素が削られた。¹⁷それに対して本稿の取り扱う中国語訳『演歌』は日本要素が残されている。前節で記述した『社長』と同じように、台湾の人にとっては『演歌』は異質性の薄い文化語彙であるので違和感のない訳語であった。¹⁸

一方、「スナック」の定義も曖昧であるが、日本では概ね軽い食事とお酒が提供されて、カウンターにいるママが常連客と雑談したりカラオケを楽しむ飲食店のことを指しており、日本要素がある場所といえる。それに対して訳語の『酒吧』は単にカウンターで酒類を提供する場所であり、「スナック」に比べればママとの雑談やカラオケなど日本要素が削られ一般化されているのである。

表 5 娯楽類の翻訳ストラテジー

日本語のセリフ	中国語字幕	翻訳ストラテジー
演歌	演歌	漢字移植
スナック	酒吧	改訳

4.5 通貨

通貨の翻訳は表 6 のように台湾ドルに相当する金額に換算されず、「円」をそのまま『元』にされたことが観察できた。通常、新聞記事やビジネス領域では通貨の翻訳は、例えば 100 万円を『100 萬日元』のように日本円であることを明示し、または約『28 萬台幣』という訳語社会の通貨に換算して表示する。ただし、映画やドラマのセリフに出現した通貨は外貨であること、または現地の通貨で換算すればいくらになるかはわざと説明しないのが普通である。「100 万円」と『100 萬元』には約 3.7 倍の差があるが、視聴者にとって映画

¹⁶ 菊池清麿 (2016) 『昭和演歌の歴史 その群像と時代』アルファベータブックス

¹⁷ 同注 8

¹⁸ 『演歌』は『萌典』における『兩岸辭典』に収録されている語彙。
<https://www.moedict.tw/~%E6%BC%94%E6%AD%8C>

に出た 100 万円はストーリーの流れによって構築された金銭感覚で、視聴者の生活している現実社会のお金ではない。言い換えれば、登場人物が言及した金銭はストーリーにある日常の一部であり外貨ではないのである。視聴者に映画の世界に溶け込んでもらうために、セリフに出現した通貨は意図的に外貨だと明示したり、訳語社会の通貨単位に置き換えたりしないのであろう。表 6 の例において「100 万円」を『100 萬日幣』に翻訳すれば、視聴者とストーリーの世界に距離が生じ、臨場感を弱めることになると考えられる。

しかし「100 万円」と『100 萬元』との価値のずれがストーリーのメリハリに影響があると判断すれば、『元』のかわりに『円』を使用するのが一つの案であろう。『円』は『圓』の異体字でありながら、「円」は「演歌」、「社長」のように台湾では広く認識されている日本語でもある。そのためセリフに出た日本の通貨は「漢字移植法」で『円』にすれば、「円」と『元』における価値のずれの問題がなくなる。

表 6 通貨の翻訳ストラテジー

日本語のセリフ	中国語字幕	翻訳ストラテジー
100 万円ぐらい だったら	不過是 100 萬元	意識 ¹⁹
1800 万	是 1800 萬	意識

4.6 その他

「人称接尾語」、「葬儀用語」、および「銭湯」のような日本的要素の有する表現は Pedersen(2011)の提出した異文化要素の領域には明記されていないので本稿では「その他」の類に記するが、中川(2017)の定義によれば文化語彙の射程に入る。

「おくりびと」では「さん」、「ちゃん」、「君」などの人称接尾語は意識で『先生』になったり、「改訳法」で『阿〜』になったり、「音

¹⁹ 「円」と『元』は共に通貨単位を表すという視点から考えると、2語の相互転換は「意識」の枠に入るが、通貨の価値が異なる。

訳法」で『桑(sang)』になったりして、起点言語と同様に目標言語にも人称のバラエティーが見られた(表 7)。人称接尾語は登場人物のインターアクション、関係性、場面、性別などによって流動的に変化するもので、訳者は言及された人物のストーリーの流れにある相対的な位置づけから判断して決めたと考えられる。

次に、「ルーズソックス」の「ルーズ」は「改訳法」で『泡泡』に訳された(表 7)。「ルーズ」と『泡泡』は指示内容が異なるが、膨らんでいるように見えるのが共通点である。90年代日本の女子高生のあいだで流行っていた「ルーズソックス」は台湾の若い女性にも人気があったため、「改訳法」で作成された『泡泡襪』という造語が存在している。一方、矢田(2014b)では「ルーズソックス」の流行っていない欧米では対応の語彙がなく、直訳の“Loose socks”も意味として機能しないので、異なる視点から“socks like us”に訳されたと分析されている。

また、映画には公衆浴場を意味する「風呂屋」、「銭湯」、「男湯」の3語が現れた。「風呂屋」と「銭湯」は同義語で「男湯」の上位語である。この3語の訳語は区別されず、『澡堂』で統一された(表 7)。言語は人間に対する経験の仕方を規定する働きを持っていて、言語が異なれば対象の区切り方も異なる。そして言語上では区別を設けていないのは文化的に弁別する必要がなかったからだと言える(山田 1998)。²⁰確かに公衆浴場は従来日本では社会的交流の役割があつて、それに関する語彙が細分化されている。それに対して、台湾には公衆浴場は日本のような社会的機能がないため、語彙表現もそれほど多様ではない。そのため、「風呂屋」、「銭湯」、「男湯」を概括的な言葉『澡堂』にしたほうが視聴者に即時に認識してもらえらるだろう。「銭湯」を『澡堂』に訳したストラテジーは鄭(2017)では説明しきれず、矢田(2014a)の「一般化」に当てはまる。

葬儀用語は「含み綿」、「湯灌」、「あの世に帰るための逆さ産湯」

²⁰ 山田孝子 (1998) 「ものと名前の人類学」『言語人類学を学ぶ人のために』宮岡伯人編 世界思想社

の3語が抽出された。「含み綿」、「湯灌」は「漢字移植法」で『含棉』、『湯灌』に翻訳されて、「あの世に帰るための逆さ産湯」は視点が変わって『回到陰間的誕生水』にされた。「含み綿」は葬儀の際に故人の遺体を自然な形となるようにするために、綿を口腔と歯列との間に入れて、ほほを膨らませる処置で、「湯灌」はお湯で遺体を清めることである。台湾にも似たような処置があるが、独立語で表現されていない。²¹『含棉』と『湯灌』は台湾社会で馴染む表現ではないので、相応のタイミングで相応の画面がなければ、ピンと来ない可能性が大きい。つまり、「漢字移植法」で翻訳したこの2語は意味伝達の機能が薄いのである。

異質性を保留したまま日本語の漢字を使用した訳語は造語になり、最初に使い始めたときは意味が理解できなかつたり、違和感を感じたりするが、時間が経つに連れて意味が定着される。台湾社会で使われている『和菓子』、『手打』がその例である。ただし『含棉』、『湯灌』のような語彙は日常生活で滅多に触れず、『和菓子』、『手打』のように定着していくのが難しいと考えられる。それに映画字幕の即時性および視聴者への最小負担という考慮を入れれば、「含み綿」、「湯灌」のような語彙を翻訳するとき「漢字移植法」の使用は吟味する必要があると考えられる。

一方、「湯灌」の役割について説明する文-「あの世に帰るための逆さ産湯」の訳語が調和が欠けている表現になってしまっている。なぜかという、訳語の『陰間』には地獄の暗くて恐ろしいイメージが含まれていて、その後に『誕生』という語が来ると、訳語が「地獄に帰って復活するための水」という違和感のある、望まれていないものになってしまったからである。「あの世」は普通、宗教の観点からは大きく天国と地獄に分かれるが、翻訳の際に語彙全体の調和を考慮して「あの世」を明るいイメージの「天国」にして、つまり

²¹ 「含み綿」は『填充棉花』、「湯灌」は『遺體沐浴』、『洗身』という。
ネット資料:「台湾殯葬資訊網」

<http://www.funeralinformation.com.tw/Detail.php?LevelNo=205> 2021.03.01 検索

『回到天國的誕生水』または『回到天國的重生水』にすれば、訳語に前後の衝突がなくなってまとまるはずである。

表 7 その他(人称、葬儀用語など)の翻訳ストラテジー

日本語のセリフ	中国語字幕	翻訳ストラテジー
小林君	他叫小林	省略
藤井さん	藤井太太	意識
佐々木さん	佐佐木先生	意識
大ちゃん	阿大	改訳
ママさん	媽媽桑	音訳
ルーズソックス	泡泡襪	改訳＋意識
風呂屋	澡堂	意識
男湯	澡堂	一般化
銭湯	澡堂	意識
含み綿	含棉	漢字移植
湯灌	湯灌	漢字移植
あの世に帰るための逆さ産湯	回到陰間的誕生水	改訳

5. 考察

本稿では日本映画「おくりびと」を対象に、セリフにある文化要素がどのように中国語字幕で提示されたのかについて検討した。

表 2-表 7 に示したように、本稿で取り上げた文化要素がある 36 例の表現で、使用された翻訳ストラテジーは「漢字移植」、「ローマ字移植」、「当て字」、「音訳」、「意識」、「改訳」、「省略」、「加訳」、「一般化」の 10 種類であった。そのうち、「漢字移植法」の使用回数は 17 回あって約半数を占め、「当て字法」は鄭(2017)と矢田(2014a)には言及されなかったストラテジーである。また、鄭(2017)の「改訳法」の適用範囲が広く、起点言語と目標言語とのずれがどのように埋まったかは知りかねる。起点言語と目標言語との包摂関係を知るには矢田(2014a)を参考して深く探求する必要がある。これを今後の課題

にしたい。

本稿の取り扱った文化要素のある表現の翻訳特徴は下記のようにまとめられる。

(1) 漢字またはローマ字で表記する固有名詞はほとんど移植法で翻訳され、仮名で表記する固有名詞は訳者の判断で「意識法」や「当て字法」で表現された。

(2) 一般名詞の翻訳については、目標言語で対応できる語彙があれば、その対応の言葉でいわば「意識法」で翻訳するのがもっとも多かった。「サーロイン」を『牛五花』、スターを『明星』にするのがその例である。しかし「納棺師」のように訳語社会には対応できる語彙は存在しても、ストーリーの流れを考慮して原文の異質性を保留して「漢字移植法」を使用する場合もあった。一方、セリフの意味内容に合致する語彙がない場合、起点言語の異質性を弱めて、上位語やもっと一般的な表現で転換される。「スナック」を『酒吧』、「男湯」を『澡堂』に訳されたのがそれである。

(3) 映画に出た通貨は登場人物の視点から言及したもので、視聴者をストーリーの世界に引き入れるために、それが外貨だと明示されず、訳語社会の通貨にも換算されない。

(4) 字幕の出現は即時性があるから、翻訳する際に語彙の意味のほかにも文脈、ストーリー全体の調和性を考慮に入れて理解しやすくしなければ、文化の障壁が越えがたい。「あの世に帰るための逆さ産湯」の字幕『回到陰間的誕生水』は異文化の壁を乗り越えた成功例とは言えなからう。

字幕翻訳は空間、時間の制限および画面の補助の下で起点社会の音声を目標社会の文字にする越境作業である。起点言語と目標言語は提示形式が異なるので、両者の意味的相違が一般の出版翻訳よりも大きく存在することが理解されている。しかし文化要素が翻訳操作で大幅に削除されたら、文化の架け橋という翻訳の機能も弱まってしまう。こうした特徴を認識したうえで、訳者の役割を改めて見直せば翻訳教育の視点をより一層広げられると思われる。

6.今後の課題

本研究は語彙レベルにある異文化要素を中心に調査したが、翻訳には語彙レベルだけではなく、文レベルの問題や価値観、宗教などを含む深層文化の問題が残されている。まだ、映画一本のデータのみで分析した結果は字幕翻訳全体の説明に不十分であるため、それを明らかにするために今後はさらに調査を進める必要がある。

【付記】謝辞：本研究は科技部研究案 MOST 107-2410-H-128-023-の助成を受けたものである。科技部のご支援、査読のご意見に心より深く感謝する。

参考文献

- 菊池清麿(2016)『昭和演歌の歴史 その群像と時代』アルファベータブックス
- 篠原有子(2013)「映画『おくりびと』の英語字幕における異文化要素(日本的有標性)の翻訳方略に関する考察」『翻訳への招待』9, 日本通訳翻訳学会, pp.81-97
- 篠原有子(2014)「日本映画の英語字幕における訳出要因について—制作プロセスと視聴者に着目して」『翻訳通訳研究』14, 日本通訳翻訳学会 pp.97-104
- 鄭加禎(2017)「日本映画タイトルの訳名研究—台湾と中国の異同をめぐって」『台湾應用日語研究』21 台湾應用日本語学会 pp.93-117
- 中川裕(2017)「カラハリ狩猟採集民の語彙研究から言語の普遍性と多様性の理解へ」『FIELDPLUS』18, 東京外国語大学 pp.4-5
- 藤濤文子(2002)「固有名詞の翻訳方法について--グリム童話の場合」『ドイツ文学論集』31, 神戸大学, pp. 19-32
- 藤濤文子(2007)「翻訳行為と異文化間コミュニケーション—機能主義的翻訳理論の諸相」松籟社

- 保坂敏子(2016)「字幕翻訳で失われる要素：言語教育との関わりを考える」『日本語と日本語教育』44, 慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター, pp.41- 57
- 矢田陽子(2014a)「BBC『Pride and Prejudice, 高慢と偏見』字幕分析 言語文化差異と翻訳との関係」『尚美学園大学総合政策研究紀要』25,尚美学園大学総合政策学部,pp.47-64
- 矢田陽子(2014b)「異文化研究としての翻訳学と記号学 -映画『おくりびと』の英語・スペイン語字幕 にみる言語文化-」 『尚美学園大学総合政策論集』18, 尚美学園大学総合政策学部総合政策学会 pp.65-79
- 山田孝子(1998)「ものと名前の人類学」『言語人類学を学ぶ人のために』宮岡伯人編 世界思想社
- 台灣殯葬資訊網
<http://www.funeralinformation.com.tw/Detail.php?LevelNo=205>
2021.03.01 検索
- 林素英(2016)「『送行者-禮儀師的樂章』的儒學義理詮釋-愛你一生一世的實踐範例」『生命教育研究』8(1),高等教育出版社 pp.51-71
- 鄭寶璇(2009)「從關聯性理論探析科幻電影的字幕翻譯」『Journal of Translation Studies 』12 (1&2)香港中文大學,pp.97-122
- Pedersen,J.(2011)Sbutitling norms for television. Amsterdam & Philadephia: John Benjamins.